



## 死なない国家を支えた「オピニオン」の行方

現代では新たな国家が生まれても、すでにある国家が「死ぬ」ことはない。それは支配者の「力」の賜物なのか。否、支配される側が見いだす「オピニオン」(共通感覚)のゆえである——。王権神授説からナショナリズムまで、人々はいかにしてオピニオンを共有してきたか。テクノロジの進歩はオピニオンを不要にし、国家が「死ぬ」時代を到来させるのか。「正当性」とも異なるオピニオンの系譜を、研究者夫妻が読み解く。

### 「オピニオン」の政治思想史

国家を問い直す  
堤林剣／堤林恵・著  
岩波書店、924円

二〇世紀、時空を超えて世界に遍在し、全くの否定から条件付きまで、あるいは同一の人物・集団の中に「親米」と同居してしまう——それが「反米」だ。なぜ「反米」が広がったのか、いままでの分析の答えは百花斉放、当の米国自身も理解できていない。東大駒場の地域研究者を中心とする共同研究の本書は、中南米、欧州、中国、ロシア、日本といった諸地域や個人の事例を多様な角度から検討し、そんな「反米」の歴史と構造を素描する。

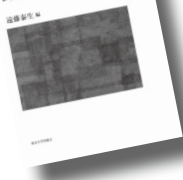
## 米国への無理解か、米国自身の無理解か

### 反米

共生の代償か、  
遠藤泰生・編  
東京大学出版会、6160円

### 反米

共生の代償か、  
闘争の胎動か



一九七六年から二〇一〇年まで、「基盤的防衛力構想」は、国際環境の激変のなか三四年の長きにわたり日本の防衛力のあり方を示してきた。自国の防衛力がどうあるかについての合意を欠いた戦後日本で、多義的に解釈可能な「基盤的防衛力構想」が「意図せざる合意」を形成したのだ——9・11を境に防衛力ををめぐる国内分裂は収束、同構想は終焉した。今後の防衛力のあり方を、自らの手で模索するための一助となる政策史。

## 新たな史料で解き明かす 戦後日本防衛構想の実像



### 安全保障と防衛力の戦後史

1971-2010  
「基盤的防衛力構想」の時代  
千々和泰明・著  
千倉書房、6050円



## ホワイト・フラジリティ

私たちはなぜレイシズムに向き合えないのか?  
ロビン・ディアンジェロ・著  
喜堂嘉之・監訳 / 上田勢子・訳  
明石書店、2750 円

## あなたは差別主義者、 そしてレイシスト

「あなたはレイシストだ」こう咄められたら、多くの人は憤慨し否定するだろう。しかし著者によれば、そうした差別的拒絶反応こそが「白人の心の脆さ」と特権に他ならないという。マジョリティに立つ者として、潜在的な人種差別主義にどう向き合うか。白人女性の著者が現代アメリカのレイシズムに二石を投じ、BLM (Black Lives Matter) 運動を機にベストセラーとなった本書は多様化が進む日本社会にも重要な示唆を与える。

## 未来を拓く学び 「いつでも どこでも 誰でも」

バキスタン・ノンフォーマル教育、0からの出発  
大橋知穂・著  
佐伯印刷、1100 円



学校に行っていない子どもや若者の数が世界で二番目に多い国バキスタン。貧困、家事労働、学校などの要因で、学ぶ機会を逸してしまっただ人が多い。そんなバキスタンで、人の命や生活を守り、育む力を身に付けるための「ノンフォーマル教育」構築に JICA は尽力してきた。二〇〇八年からプロジェクトに携わる著者が、当局からの不信・無理解などの困難に直面しながら、学びたい人の未来を拓いてきた経験を語る。

## 学びの機会を広げる マイナスからの挑戦

持続可能でよりよいコーヒー、「サステナブル・コーヒー」を実現するには。本書はコーヒー産業の抱える課題の多様性とグローバル性に着目し、コーヒー、経済、開発援助、それぞれの分野の第一人者がコーヒー産業の現状を生き生きと描き上げ、山積する課題を解決していく。それは SDGs が掲げる一七のゴール全てと重なっている。SDGs を身近な問題から説き起こし、具体策との関連を余すところなく示すのが本書の最大の魅力だ。

## コーヒーで読み解く SDGs

Jose. 川島良彰 / 池本幸生 / 山本加夏・著  
ポプラ社、1870 円



「一杯のコーヒー」を  
将来世代に  
届けるために